

平成30年度 公益財団法人 山形県産業技術振興機構における各種研修事業 概要

	コース名	研修概要	研修 時期 (予定)	時間 数	定員	受講料
製造業 技術者 研修	1 品質管理(2級)	品質管理の考え方と実践を具体的な事例をとおして学び、品質管理体制の構築の手法を習得する。	9月	24	35	24,000
	2 精密測定技術	精密測定の講義、ならびにマイクロメータの使い方を少人数制で行うことにより、精密測定技術の基礎を習得する。	6月	12	12	22,000
	3 切削加工・研削加工技術	切削加工および研削加工について、講義および実習を通じて基礎的かつ実践的な技術力の習得を図る。	6月	12	15	24,000
	4 製品設計・製造に役立つ金属材料学	工業製品の設計・製造に不可欠な材料について、鉄系材料を中心として基礎的な知識を習得する。また、強度試験、硬さ試験、組織観察等を通じて金属材料の評価方法を学ぶとともに、材料の特性と組織の関係等についても理解を深める。	11月	12	18	23,000
	5 電気計測技術とEMC・ノイズ対策技術	デジタルオシロスコープの原理や活用法について、実習を交えながら学び、正確な電気信号観測技術を身につける。あわせて、電磁ノイズ発生仕組みを理解することでEMC(電磁環境両立性)・ノイズ対策技術を学ぶ。	7月	12	15	23,000
	6 異物解析技術入門	製品の品質管理を行う際には、異物等の不良解析技術はその発生原因等をつきとめる上で非常に重要である。これらの解析に多く用いられる表面分析機器の原理や機能について実機見学を交えて学習し、現場で役立つ知識を習得する。	11月	12	14	23,000
	7 プラスチック材料の射出成形と物性評価	プラスチック射出成形の基礎とプラスチック材料の熱的特性及び機械的特性の基本的な試験方法を習得し、プラスチック材料を利用する上での基礎的知識を学ぶ。	10月	12	12	23,000
	8 清酒製造技術	各県を代表する有力社氏や技術者を招聘し、技術解説を行っていただくとともに、酒質の変遷や今後の市場動向等について学習する。	8月～10月	36	31	23,000
	9 食品の安全管理技術	食品製造における安全管理項目として重要な、①微生物検査、②異物鑑別、③アレルギー物質の検査、について基本技術の習得を目標とする。	6月	12	15	23,000
	10 テキスタイルトレンドと流行色(置賜)	最新のテキスタイルのトレンドおよび流行色の専門家を招き、最新の市場動向を分析することで「売れる商品」の開発に役立ててもらおうことを目指す。	10月	12	12	23,000
	11 電子・金属部品の不良解析(庄内)	分析走査電子顕微鏡を用いた微小構造の観察及び元素分析、赤外分光分析装置を用いた表面分析及び異物分析に関する技術を習得する。	8月	12	12	23,000
次世代 産業人 材育成 研修	1 ものづくり産業マネジメント人材育成研修	企業の経営者のほか、管理部門リーダー、現場リーダー等を対象として、企業マネジメントや現場マネジメントに係る各種知識やスキルを習得するとともに、昨今の人手不足に対応するための生産性向上に向けた各種手法を習得し、参加者が自社における課題解決に対応する能力を高めることを目標とする。	9月～11月	20	15	20,000
成長 分野 参入 人材 育成 研修	1 自動車部品機能・構造研修	自動車関連の新製品開発に向けた知識の習得を目指す。	8月	1日	15	2,500
	2 生産管理研修	納期を見据えた製造工程の管理方法の習得を目指す。	5月	2日	15	5,000
	3 在庫管理研修	在庫管理の改善によるコスト低減の手法の習得を目指す。	7月	2日	15	5,000
	4 生産改善研修	講義と現場実習を通して実践的な改善手法を学び自社の生産性向上を図る。	9月	3日	15	7,500
	5 現場リーダー資質向上研修	県内企業において、部下の積極性・意欲を高められるよう現場リーダー層の指導力向上を目指した研修を実施し、企業の組織力の強化を図る。	11月	2日	15	5,000
	6 ものづくり人材初級研修	ものづくり産業の基本や産業人の心構えを学ぶことにより、社員の意識向上、離職防止を図る。	6月	2日	15	5,000
	7 自動車部品ライブラリーの展示	自動車部品ライブラリーの展示及び部品貸し出しの実施 【展示場所：山形県高度技術研究開発センター 玄関展示ロビー】	通年	—	—	—
ロボ ット シス テム イン テグ レー タ 育 成 研 修	1 入門編 研修	ロボットシステムインテグレータの基礎となるロボットシステムの導入手法や3Dシミュレーションの活用、構想設計等の習得を目指す。	7月	2日	20	12,000 (予定)
	2 専門編 研修	工業技術センターの協働ロボット仮想生産ラインを活用し、ハンド設計やティーチング対応能力など専門的なスキルの習得を目指す。	9月	2日	15	10,000 (予定)
	3 応用編 研修	工業技術センターの協働ロボット仮想生産ラインを活用し、制御プログラムやセンサ対応能力などより高度なスキルの習得を目指す。	11月	2日	15	(未定)